燃える黒陵

がむしゃらに勉強し、進路達成に燃える黒陵生
ひたむきに技と心を磨き、部活動に燃える黒陵生
伝統を誇り、遠大の志を持って青春を燃やせ！

2016-NO.6

黒陵通信　2016年　第6号
平成28年 10月27日
岩手県立黒沢尻北高等学校　校長　菊池浩

県高総文祭　俳句　最優秀賞

万緑に囲まれながら学校へ
グランドに降ってくるよないわし雲
灼熱をまとって走るトライまで

平成２８年度・第３９回岩手県高校総合文化祭文芸部門の俳句で本校２年４組**豊泉壮志が最優秀賞**を受賞した。県内の１．９２６人、５．７７８句の応募の頂点に立った。来年度の全国高校総合文化祭への県の代表作品になった。

《審査員評から抜粋》清新な爽やかさが大きな魅力です。１句目は「万緑」(春) という力のある季語を使って大きな景色を詠みました。これから始まる今日という一日も充実したものになりそうな朝の情景です。２句目は「いわし雲」(秋) で、これもまた雄大な句です。広いグランド、高い秋の空、おおきないわし雲、せせこましさが微塵もない気持ちの良い句です。３句目は「灼熱」という季語はありませんが夏の季感があります。作者はラガーマンなのですね。ラグビーは冬の季語でありシーズンは冬と思っていた審査員の度肝を抜いてくれた作品です。夏の厳しい練習の成果が冬に結実するのですね。すかっとした、爽やかで、熱い、カッコイイ句です。

豊泉壮志　ラグビー部・飯豊中出身
ポジションはスクラムハーフ
「登校途中で頭に浮かんだ句で受賞してびっくりしています。ラグビーは大好き。もっと練習して成長し、ラグビーでも全国に行けるよう頑張りたいと思います。」
身体は小さいが魂のこもったプレーが魅力。大いに期待したい。

ソフトテニス　国体5位・新人4連覇
水泳高橋麗那　高総体と2冠
ラグビーは花園賭け決戦へ！

第７１回国民体育大会「希望郷いわて国体・いわて大会が幕を閉じた。本校生徒はソフトテニス男・女、陸上、ラグビー男・女に出場し黒陵魂を見せてくれた。

その中でも、１０月２日から和賀川グリーンパークで行われたソフトテニス男子では３年４組鈴木雄大が岩手県選抜チームの主将を務め、小野寺瑛司（３年１組）及川太希（３年５組）及川憂斗（２年１組）小田島圭（２年１組）大粒未徳浩（２年１組）らが活躍。順位決定戦で石川県を２－１で破り５位入賞を果たした。最終組で試合を決めた鈴木主将は「他のメンバーのためにも、何が何でも勝たないと、の思いで無我夢中だった」と声を震わせ取材に応えた。

また、１０月１２日から行われた県新人大会では個人戦で及川憂斗・小田島圭ペアーが１位、鈴木渓太（２年５組）・大粒未徳浩ペアーが２位を決め、最終日の団体戦決勝でも岩手高校に２－０で勝利し４連覇の貫禄を見せた。女子は決勝で花巻南高校に１－２で惜敗し準優勝だった。個人戦では伊藤紬（２年１組）・清水あい（２年３組）ペアー、佐藤花音（２年３組）・千葉麻衣（１年６組）ペアーが３位に入った。今後巻き返しを期待したい。

９月 15 日から行われた新人戦水泳競技では髙橋麗那（1 年６組）が平泳ぎ１００M、２００Mで優勝。10 月 14 日からの山形で行われた東北大会に出場、３位の好成績を収めた。

全国高校ラグビー大会の準決勝が 10 月 22 日、八幡平ﾗｸﾞﾋﾞｰ場で行われた。本校は宮古高校に２１－１０で勝ち決勝に進んだ。準決勝のもう１試合は黒沢尻工業高校が盛岡工業高校を２６－２３の接戦で制した。決勝は昨年と同様北上同士の戦い。１０月３０日（日）盛岡市いわぎんスタジアムで１４：０５キックオフ。テレビ放映もされる。昨年は惜しくも敗れ花園行きを逃したが、雪辱をはらそうとフォワードを強化した。特にモールプレーでは黒工の大型フォワードに負けていない。前に出るディフェンスで相手を崩し、速い球出しの展開ラグビーで勝利したい。ゴールキックを蹴る吉武大介（２年５組）の成長も武器となる。３０日は全校応援とした。心を一つに応援したい。

進路講進演会（10／20）　1学年：村上超子さん　2学年：鈴木晃彦さん

《１学年》詩歌文学館１８：００～
村上超子さん　ＰＨＰビジネスコーチ
「高校生の保護者として知っておくべきこと」

長男が自閉症、次男が京都大学合格。２人の子育ての経験談から、親として大切なことは何か。受験生の親として自分は何も知らなかったことを話し、受験生の親としてどうあるべきか客席を回りながら同じ親としての目線で保護者とともに考えた。子どもの人生は親のものではない、大切なのは子どもの将来を信じ、応援することと訴えた。

《２学年》黒陵会館　１８：００～
鈴木晃彦さん　山形大学。富士大学教授
「未来学概論２０１６～子は育てたように育つ」

高校教員出身という自分の経験を交えながら、子を持つ親として前向きに生きるために「子どもも人生の岐路に立つことを自覚すること」「子どもの話に耳を傾ける」「子どもの可能性を信じること」「親としての威厳、生き様、必死さを見せつける」など様々な親の例に出しながら子どもの豊かな未来について保護者とともに考えた。
「親は子どもが幸せになる種子を蒔く」という言葉が印象的だった。

校長徒然草（10月14日 避難訓練での講話から）　大震災から５年半、今回の台風１０号による被害も大きかった。この機にもう一度「いきる・かかわる・そなえる」を確認して欲しい。「命は尊いものであるということ。それを守っていくこと。」小さなことの積み重ねが大切。防災に限らず交通安全、環境整備など些細だができることを積み重ねてこそ豊かな未来に繋がる。一日一日を大切に生きよう！